

5/6
日

アスリートとふれあえるビーチスポーツイベントを開催!

オールシーズン賑わう日本の海辺を目指して

第2回 ビーチライフ in お台場

2007年5月6日(日) 9:00~17:00

※同時開催のビーチパレーツアー-JBVツアーは、5月4日~6日の3日間実施

〈会場〉お台場海浜公園 / おだいばビーチ(港区台場1-4-1)

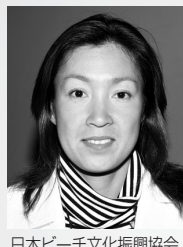


- 主催: 日本ビーチ文化振興協会、港湾空間高度化環境研究センター
- 共催: 臨海副都心まちづくり協議会、ビーチライフネットワーク (=日本ビーチパレー連盟/TEAM遊佐/ピースン協会/健康体操マイペース/NPO法人日本者の美術協会/JAPANビーチサッカーネットワーク/NPO法人スポーツクラブネットワーク/ビーチ相撲とゆかいな仲間たち/dekirukoto.net/NPO法人健康医学科トレーナーズ協会/School of ALOHA/NPO法人ユニバーサルデザインスポーツ支援事業団/茅ヶ崎アウトリガーカヌークラブ)
- 後援: 国土交通省、環境省、東京都港湾局、埠頭公社・テレポートセンターグループ、日本商工会議所、東京商工会議所、日本経済新聞社、首都高速道路協会
- 協力: 国土交通省関東地方整備局東京港湾事務所、お台場サロン、お台場有志のみなさま、玉海力、NPO法人東京パークレンジャーズ ほか
- 協賛: 金鶴食品製菓、小学館、新日本製鐵、東洋建設、日本郵船、ヤナイ ほか



日本ビーチ文化振興協会 常任理事 徳野 涼子氏

現役時代に世界を転戦し、心に残っているのはブラジルのビーチです。ビーチ周辺の道路には売店が充実し、景色を楽しみながらビールを飲んでいる人がいるなど人々が集まりやすい環境が整っています。海外のビーチを参考にしながら日本のビーチのあり方をもっと追求していきたい。砂浜で裸足になるだけでも心が開放される感覚を多くの人に感じてもらいたいです。



日本ビーチ文化振興協会 理事 佐伯 美香氏

シドニーオリンピックのときに監督のもとで5カ月ほどブラジルに滞在しました。ブラジルでは、ビーチの一角に小さなアスレチックが設けてあり、子どもが遊ぶ横のカフェでお母さんもリラックスしながら子どもたちを見守っていました。砂の上だとけがも少ないので、日本のビーチにも子どもたちの遊び場が充実すればと思います。



日本ビーチ文化振興協会 理事 朝日 健太郎氏

インドアパレーからビーチパレーに転身して5年がたちました。空や空気、砂などを直接体で感じてプレーする中で、自然と共に生活できるのがいかに豊かな時間なのかを実感します。港にしても日本は産業重視で整備されてきました。しかし、いまはもっと生活に溶け込むような海辺づくりが望まれており、寒い季節のビーチの利用も提案できればと思います。



日本ビーチ文化振興協会 理事 遊佐 雅美氏

海の近くに住んでいるので、週の半分以上はビーチで過ごします。毎日表情の異なる海を見ているだけでもリフレッシュできるので、自然の偉大さを感じています。今回、ビーチライフのイベントではビーチフラッグスを行います。誰でも裸足で安全に遊べる海岸づくりを目指して、朝夕に海岸に落ちているゴミを拾うなど、ライフセーバーとしての役割も充実させていきたいです。

また、ビーチパレーを描いた漫画「ビーチス ターズ」が好評を博していましたが、漫画を発行している小学館から今回のイベントに多彩な本を寄贈していただきました。日光浴をしながらのんびりと「ビーチライフ」を満喫していただきたいと思っています。

ビーチ活性化の取り組み、徐々に成果

こうしたビーチ活性化の取り組みが徐々に成果をあげています。お台場の小学校では学校をあげてイベントに参加していただく予定です。また児童館では、お台場のビーチを使って運動会を開催したいと話をしていただきました。さらに、港区の体育指導員を対象にした教室がビーチで行われるなど、ビーチ利用の小さなムーブメントが起きているように感じます。今後ますます大きな波を起せるようさらに活動に力を入れてまいります。

「恵まれた環境を生かし、もっと日本の海辺を魅力あふれるスポットにできないだろうか。こうした視点から日本ビーチ文化振興協会は、海辺文化の振興・発展を目的に二〇〇四年に設立されました。日本の海は、夏場の海水浴以外は閑散としていることがほとんど。海外では季節にかかわらず多くの人が海辺に集い、ジョギングや日光浴、読書などを楽

今年四月に日本ビーチパレー連盟会長に就任した川合俊一氏は、ビーチパレー選手の強化と環境問題は一体化したテーマだと主張する。「一九九六年のアトランタ大会からビーチパレーが五輪の正式種目になりましたが、日本の選手登録数は八百人程度。世界的には最も人気のある競技の一つだけに、今後選手層の拡大や指導陣の強化を図ってほしい。一方、地球温暖化による海面上昇などでビーチパレーのフィールドである砂浜が浸食され狭くなっています。これは深刻な問題です。いくらビーチパレーを普及し選手層を厚くしようとしても砂浜がなければコートが取れないのですから。今、私は国や全国の自治体に協力していただいて、砂浜の減少を抑えるとともに、常設コートの設置を増やすことに全力をあげています」

そうした努力が実を結び、現在全国で約六十カ所に常設コートができた。神奈川県平塚市では市が十六面の常設コートや関連施設を設置、一年を通じてさまざまなビーチイベントが開催されている。「ビーチパレーだけでなく、温暖化の影響を受けるゴルフやスキーといったアウトドアスポーツの団体との連携も図りながら、環境問題への意識を高める活動も展開しています」

日本ビーチ文化振興協会との協力体制も万全だ。川合氏と瀬戸山理事長とはかつてのビーチパレーのチームメイト。「向かっている方向は同じなので、「ビーチライフ」などのイベントには積極的に協力し、環境保護やビーチパレーの普及にも貢献したい」と語った。



日本ビーチ文化振興協会 理事長 瀬戸山 正二氏

いた漫画「ビーチス ターズ」が好評を博していましたが、漫画を発行している小学館から今回のイベントに多彩な本を寄贈していただきました。日光浴をしながらのんびりと「ビーチライフ」を満喫していただきたいと思っています。



日本ビーチ文化振興協会 会長 大村 哲夫氏

「歴史を振り返ってみても、海外との文化交流がスタートしたのは海辺からです。また、白砂青松に代表される日本の海辺の原風景は、日本人の文化や風土をほぐくむ上で大きな役割を果たしてきました」

今年四月に日本ビーチパレー連盟会長に就任した川合俊一氏は、ビーチパレー選手の強化と環境問題は一体化したテーマだと主張する。「一九九六年のアトランタ大会からビーチパレーが五輪の正式種目になりましたが、日本の選手登録数は八百人程度。世界的には最も人気のある競技の一つだけに、今後選手層の拡大や指導陣の強化を図ってほしい。一方、地球温暖化による海面上昇などでビーチパレーのフィールドである砂浜が浸食され狭くなっています。これは深刻な問題です。いくらビーチパレーを普及し選手層を厚くしようとしても砂浜がなければコートが取れないのですから。今、私は国や全国の自治体に協力していただいて、砂浜の減少を抑えるとともに、常設コートの設置を増やすことに全力をあげています」

今年四月に日本ビーチパレー連盟会長に就任した川合俊一氏は、ビーチパレー選手の強化と環境問題は一体化したテーマだと主張する。「一九九六年のアトランタ大会からビーチパレーが五輪の正式種目になりましたが、日本の選手登録数は八百人程度。世界的には最も人気のある競技の一つだけに、今後選手層の拡大や指導陣の強化を図ってほしい。一方、地球温暖化による海面上昇などでビーチパレーのフィールドである砂浜が浸食され狭くなっています。これは深刻な問題です。いくらビーチパレーを普及し選手層を厚くしようとしても砂浜がなければコートが取れないのですから。今、私は国や全国の自治体に協力していただいて、砂浜の減少を抑えるとともに、常設コートの設置を増やすことに全力をあげています」

春夏秋冬を通じた海辺の活性化を目的に日本ビーチ文化振興協会は海辺イベントや環境保全などの諸活動を促進している。ゴールデンウィーク最終日となる六日には全国縦断海辺活用推進フェスタ「第二回ビーチライフ in お台場」を開催。アスリートと一緒にスポーツを楽しみながら、参加者に海辺の魅力を身近に感じてもらう。また、海岸の清掃活動などスポーツ以外にも多彩なイベントを用意している。

「歴史を振り返ってみても、海外との文化交流がスタートしたのは海辺からです。また、白砂青松に代表される日本の海辺の原風景は、日本人の文化や風土をほぐくむ上で大きな役割を果たしてきました」



(株)玉海力 代表取締役 玉海力 氏

当日はゲストに(株)玉海力 代表取締役の玉海力さんや元力士の大至さんが登場。本物の力士に向かって子どもたちも体当たりでチャレンジする。「国技館の初場所です。俵をビーチに埋めて土俵をつくります。思いきり相手にぶつかっていき中で、コミュニケーションをとり、親子でも気軽にビーチ相撲を体験できるようにしていきたいです」(玉海力さん)

今年からビーチ相撲がスタートします

裸足の文化を推進

今年の「ビーチライフ in お台場」のイベントに、ビーチ相撲が新たな項目として加わった。これは、裸足(はだし)になって日本の伝統文化である相撲を体験することで、①砂浜の感触や温かさを感じ、自然の大切さを学ぶ ②健全な遊びの中から人間社会の仕組みを学ぶ ③健康な体をつくる大切さを学ぶ ④裸足で砂の上を歩き、ストレスフリーな心を育てる大切さを学ぶ——などを主な目的としている。当日はゲストに(株)玉海力 代表取締役の玉海力さんや元力士の大至さんが登場。本物の力士に向かって子どもたちも体当たりでチャレンジする。「国技館の初場所です。俵をビーチに埋めて土俵をつくります。思いきり相手にぶつかっていき中で、コミュニケーションをとり、親子でも気軽にビーチ相撲を体験できるようにしていきたいです」(玉海力さん)

企画・制作
日本経済新聞社 広告局